

1. キリストとはどういうお方なのでしょうか？

1) 教会を守って下さるお方

1 節に「『神の七つの御霊と七つの星を持つ方が、こう言われる』とあります。持つ方とはキリストのことですが最初に、「七つの星を持つ方」ということばから考えてみましょう。すでに黙示録 1:20 に「七つの星は七つの教会の御使いたち」とあるように、「七つの星」とは、まず霊的な存在である「御使い」のことを言っています。1 節に「サルディスにある教会の御使い」とあるように、サルディスの教会には、その教会を担当する御使いがいたのです。エペソの教会にも、スミルナの教会にも、七つの教会のどれにも、それぞれに御使いが与えられていました。みな最初にどこどこにある教会の御使いに書き送れと書いてますね。そして黙示録の七つの教会とはすべての教会を意味しています。ですから、蜚池聖書教会のためにも、御使いが与えられているということになります。それはどんな御使いで、何という名前なのか、私たちには、分かりません。ただイエス・キリストがご自分の教会を御使いたちに守らせておられることは確かなことです。キリストが御使いを送って教会を守っておられるというのは、神話でも伝説でもありません。それは聖書にある通り、実際のことです。教会は、たんに建物や組織以上のもの、霊的なもの、キリストに属するものです。教会とは神の真理を保ち、神を愛し、互いに仕えあうところです。建物や組織だけなら、お金や能力で保つことができるでしょう。しかし、真理や愛は、人間の力だけで守ることができるものではありません。霊的なものは、霊的な存在によって守られる必要があるのです。教会が、御使いによって守られるべき、霊的なものであること、キリストが教会を御使いたちによって守っておられることをしっかり覚えておきたいと思います。

次に「七つの星」とは、教会の牧師たちのことも意味しています。「御使い」という言葉は（ギリシャ語ですが）天使エンジェルから来ていて、文字通りは「メッセンジャー（伝える者）」という意味です。ですから御使いはキリストのメッセンジャーということです。ただ御使いが私たちに直接語りかけて伝えても、御使いのことばを知らない私たちはそれを理解することができません。それでキリストは、それぞれの教会に神のことばをとりつぐメッセンジャーとして牧師、伝道師らを与えてくださいました。私たちが属している日本同盟基督教団においてはそれぞれの教会に牧師、伝道師を送る、派遣すると言い方をしています。しかし聖書に「こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。」（エペソ 4:11）と教えられているように、派遣や招聘（教会が招くこと）という形をとってはいても、牧師たちはキリストご自身によって、直接、その教会に立てられているのです。牧師たちは、毎回、毎回のメッセージを、聞き手である皆さんの顔を思い浮かべ、その置かれた状況を考えながら、注意深く聖書を調べ、準備します。何よりも、祈りの中で、キリストのメッセージに聞き、それを忠実に伝えようと努力します。しかしキリストご自身が「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」と言っておられるように、すべての人が聞く耳を持ってメッセージを聞いているわけではありません。皆、聞くのであればそんなことを言う必要がありませんから。そんな中で、時代に流されることなく、神のことばを神のことばとして語るのはとても難しいことです。しかし、キリストは、そのような中でも忠実にみことばを語るメッセンジャーを、その手の中で支えてくださっています。聞いた人にしか与えられない祝福と恵みを主キリストが備えて下さっている。これは、みことばを取り次ぐ牧師、伝道師にとって大きな慰めです。

さらに、「七つの星」とは教会に集うクリスチャンひとりびとりのことも意味しています。なぜなら私たちは、神が、この世に対するご自分の「伝え手」、メッセンジャーとするために、集められているからです。神は、この礼拝で、「来て、私の語ることを聞きなさい」と言って、私たちをこの世からご自分のもとへと招き、神のことばを分け与えてくださいます。それだけではなく、礼拝の終わりには、「行って、

語りなさい」と言って私たちを、再び、世に遣わし、神のことばのメッセンジャーとしてくださるのです。日本の中でクリスチャンは本当に少数です。しかし私たちには、この世が持っていないメッセージが与えられています。この時代が見失っている永遠の真理を持っています。人を救い、天国に導く福音を持っているのです。「七つの星」をその手に持っておられるキリストは、私たちがこの神のことばを保ち、それを伝えることができるように、私たちを守ってくださるのです。

2)教会を生かすお方

キリストはまた「七つの御霊…を持つ方」として描かれています。「七つの御霊」といっても、聖霊が七人おられるということではありません。「御霊は一つ」(エペソ4:4)とあるように、聖霊なる神はおひとりです。「七つ」という言葉は、このおひとりの御霊が、七つの教会のそれぞれにともにおられ、そのそれぞれに必要な賜物を与えておられることを表しています。黙示録の七つの教会は、全世界にひろがるすべての教会を表していますから、聖霊は、すべての真実な教会におられるということです。教会は「キリストのからだ」です。では、「キリストのからだ」を生かしている「霊」は何でしょう。それは聖霊です。ですから霊のないからだは死んだからだであるように、聖霊のおられない教会は死んだ教会とも言えるのです。聖霊は、教会にいのちを与え、教会を生かしてくださるお方です。キリストは、それぞれの教会を御使いによって、「外側から」守ってくださるばかりでなく、教会に聖霊を与えて、教会を「内側から」も守ってくださっているのです。

2. サルデイス教会のすがた

ところが、サルデイスの教会は、生きている教会ではなく、死んだ教会でした。黙示録の他の教会には、真理と偽りとを見分ける賜物や、忍耐、忠実さ、愛といった聖霊の働きが描かれているのですが、サルデイスの教会へのメッセージにはそういったものが見られません。そこには聖霊の賜物や聖霊の実がなかったばかりか、聖霊のいのちがなかったのです。1節に「あなたの行いを知っている」とありますからサルデイスの教会でも、礼拝が守られ、他の集会やさまざまな活動もあったでしょう。もしかしたら他のどの教会よりも活発であったかもしれません。しかし、それは形だけのものでした。キリストは、「わたしは、あなたの行ないがわたしの神の御前に完了したとは見ていない。」(黙示録3:2)と言われます。私たちの行いは何によって全うされるのでしょうか？ それは、信仰によってであり、愛によってです。そして何よりも聖霊によって全うされます。心や思いだけあっても行いがなければ、それは空しいことですし、単なる言い訳になりかねません。しかし行いはあっても心がなければ、それもまた空しいものです。私たちのすべての行いや奉仕は聖霊によらなければ、神に受け入れられるものとはなりません。サルデイスの教会は、心と行いの源となり、教会の霊である聖霊を欠いていたのです。

それで、キリストは、サルデイスの教会に対して「あなたは、生きているとは名ばかりで、実は死んでいる。」(黙示録3:1)と言われたのです。これは厳しいことばです。厳しいことばですが、同時に愛に満ちたことばでもあります。もし、医師が、患者にその診断を正しく告げなかったら、患者の病気は治ることがありません。ガンがあるのに、それを告げるのはかわいそうだからといって「たんなる腫瘍です。」と言ったら、手遅れになってしまいます。高血圧や糖尿などの病気の場合、お医者さんは、薬を処方し、食事を制限したり、生活を改めるよう指示します。もし、患者がそれを守らなかったら、熱心なお医者さんなら患者を叱ることだってあるでしょう。病気は医師ひとりで直すことはできません。医師と患者がいっしょになって病気と取り組まなくてはなりません。同じように、キリストも、私たちのたましいの医者として、私たちが、罪という死にいたる病から救われ、霊的に健康になることを願っておられます。そのために、キリストは私たちがあまり聞きたくないことばをも語られます。しかし、それは、キリストの愛から出たものなのです。

キリストは、サルデイスの教会の霊的状态に診断をくだただけでなく、どうしたら、そこから回復で

きるかという処方箋も与えておられます。それは、「目をさませ。…あなたがどのように受け、聞いたのかを思い起こし、それを守り、悔い改めなさい。」(黙示録 3:2~3) というものでした。「目をさませ」というのは、「悔い改める」と同じことを指しています。自分のほんとうの姿を見、神の前にある自分の位置を知る。そして自分の位置がずれているなら神から離れた自分の状態にまわれ右をし、真理に向かって進み出す。これが悔い改めです。道に迷ったときには、出発点にもどるのが最良の策だと言われます。霊的に迷ったときも同じです。救いの原点に立ち返るのです。神について、罪について、キリストの十字架と復活、悔い改めや信仰について、基本をもういちど学び直すのです。「私がキリストによって救われているとはどういうことなんだろうか。」と言う人がいたなら、もういちど求道者となって真理を探究しなおすことは良いことです。ある意味、すべてのクリスチャンは求道者であるべきです。もちろんそれは救われているからこそ考えてしまうわけで、信仰がなければ悩みもしませんからそこはしっかりと押さえておく必要があります。神の無限に豊かな真理は、学んでも学び尽くせません。だれも「もうこれで十分」と言うことはできません。使徒パウロは、コリントの教会に「目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。神について無知な人たちがいます。(神について正しい知識を持っていない人たち) 新改訳三版 があります。」(コリント第一 15:34) と言いました。コリント教会にさまざまな道徳的問題や秩序の混乱などがあったのは、コリントのクリスチャンの中に、聖書の基本を理解していない人々による面もあったのです。間違った教えは間違った生活をもたらし、不十分な教えは欠けのある信仰をもたらします。このあたりあまり私たちは自分の信仰生活を過信しない方が良くと思います。つまり「神、罪、キリストの十字架と復活そんなことはよく分かっている。ただ自分の抱えている問題に対してあまり効果はないのだ」と思うのです。ガラテヤ 6:7 に「思い違ひをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。」という言葉があります。キリストの与えてくださった処方箋に忠実に従い、基本に戻り、霊的に健康なクリスチャンになっていこうではありませんか。

3. 教会の将来は「私の信仰」にかかっている

キリストのサルディス教会への診断書は、「あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」ですが、これは診断書というよりは、死亡通知です。医者は、死亡通告をしたあとは何もすることができません。しかし、キリストは、それでもなお、教会に「目をさませ。」と言って、死んだ教会を生き返らせようとなさいます。そうです。みずから死に打ち勝って復活されたキリストであればこそ、死んだ者をも生き返らせることができるのです。エペソ 5:14 に「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」とあります。これは、初代教会で歌われていた賛美の一節だと思われます。この賛美はサルディスの教会でも歌われていたことでしょう。実際、エペソ人への手紙は、エペソの教会から、ヨハネの黙示録に出てくる七つの教会に回覧され、それぞれの教会で朗読されたのですから、このことばは、サルディスの教会でも知られていたはずで、復活されたキリスト、御霊をもって教会を生かしておられるキリストだからこそ、「目をさませ。」と命じることができるのです。ここに希望があります。どんなに、霊的に死んだような状態になっていても、悔い改めて、キリストに向かうなら、私たちは、必ず、再び、聖霊によって生かされるのです。

神の前であって自分のほんとうの姿に気付きましょう。そして、共におられるキリストの姿を見つめましょう。「神の七つの御霊、および七つの星を持つ方」が私たちを、守り、癒し、よみがえらせ、生かしてくださるのです。